

# 和ろうそくは、つなぐ

八尾市市民活動支援ネットワークセンター「つどい」  
業務委託運営団体【独自作成資料】

(特定非営利活動法人やお市民活動ネットワーク 担当：新福)

写真出典：「和ろうそくは、つなぐ」大西暢夫氏（2022年）



玉締め式压榨機  
蠟職人は本多さん  
(長崎県島原市)

たわわに実ったハゼの実  
ひと房ずつかごに入れる  
「ちぎりこさん」の  
島田さん  
(長崎県島原市)

ハゼの実  
を蒸し  
機械で  
しぼる

あいぞめ  
藍染

蠟カス  
(しぼり  
カス)

寒い時期だけ

3回目の発酵

染  
(すくも)  
藍の葉の  
発酵で使用

甕 (かめ) と甕の間の  
隙間に、蠟カスを入れ、  
火をつけ、くすぶり続け  
甕に入った藍を発酵  
藍染職人は森山さん  
(福岡県広川町)



ろう  
蠟

ハゼの木  
実

蠟

# 藍の栽培



新居製藍所  
6代目の新居さん  
(徳島県上板町)

軽い葉は  
遠くへ

思い茎は  
手前へ

夏



細かくくだき  
大型扇風機で  
吹き飛ばす

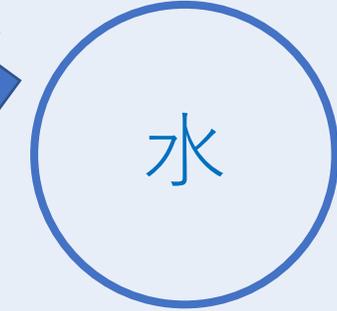


天日干し  
(夕方にはぜんぶ乾く)

1  
回目  
の  
発  
酵

乾いた藍の葉に  
水をかける

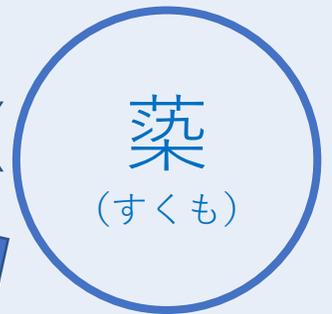
冬



2回目の発酵

すくもづくり  
染作り

むしろ織り機で編む  
米農家の古川さん夫婦達  
(佐賀県東与賀町)



むしろを隙間なくかけ、  
藁の菌が発酵を助ける



★ 染  
(すくも)  
藍の葉を  
発酵した物



# おんたやき 小鹿田焼

職人は小袋夫婦  
(大分県日田市)



うわ  
ぐすり  
(灰を  
混ぜる)

器につやを出す  
釉 (うわぐすり) に混ぜる

木の  
灰

藍染職人は森山さん  
(福岡県広川町)

底に灰がたまり  
その水だけをかけて、  
スコップで混ぜていく

染液  
(せんえき)

染液を新しく作り  
変える作業「藍建て」

ヌルヌル  
した  
水

熱湯の中に  
大量の木の灰を入れる

底にたまった灰

木の  
灰

水にひたされ  
ヌルヌルした  
成分を取り除き

木の  
灰

あいぞめ  
藍染

# 芯の軸になるまで

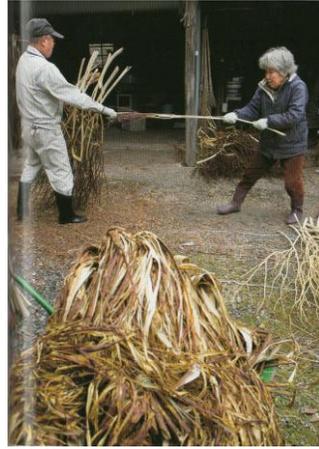


種から育て3年で和紙の原料になる

ミツマタ農家の右手（うて）さん（岡山県美作市）



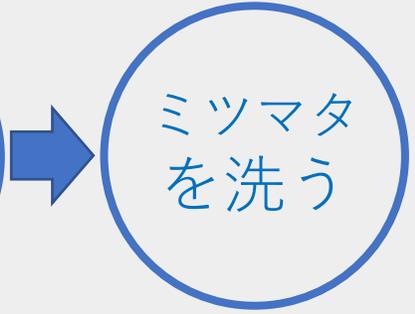
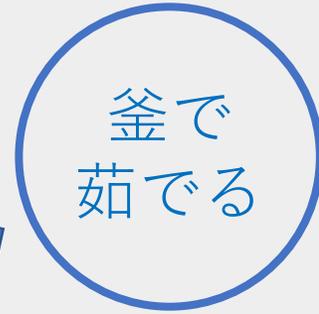
(3時間蒸す)



雑巾を絞るようにひねると剥ける。



冷たい川にもどし、2時間茹でる



川に入り、水にさらす。アクがぬける。



和紙職人の上田さん（岡山県津山市）



皮をすぐ干す。



## 和紙



### 冬



焚きつけ (風呂を沸かす)



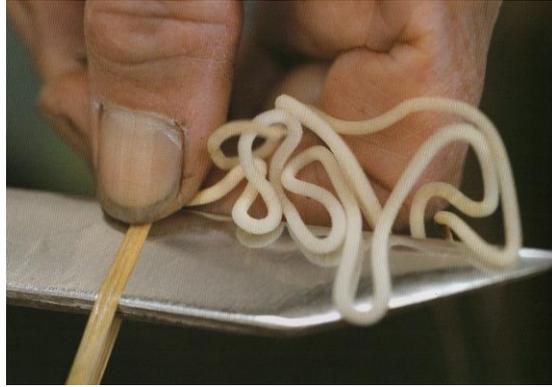
主にコウゾ・ミツマタ・ガンピ

## 和紙の原料栽培

# 芯の軸に巻きつける 灯芯 (とうしん) とその行方



谷野さん・近藤さん  
(奈良県安堵町)



灯芯草に刃物をあてがい

灯芯草の  
植物の  
髓 (ずい)

い草農家が米農家に  
変わり、ほとんどが  
やめてしまった。

灯芯引き  
白い髓を  
出す

芯の軸に  
まき  
つける

芯の軸に灯芯をまきつける。



墨作りの老舗 本橋さん  
(奈良県奈良市)

灯芯を  
結ぶ

小さな三角形  
のような形に  
結ぶ

墨作り



灯芯を  
灯す

なたね油に浸し火を灯す

細かい  
煤 (すす)  
を集める

燃やした時に  
出るなたね油  
の煤

煤を  
集め  
練る

墨

# 和ろうそくの芯の仕上げ 「真綿」



宙を舞うような軽さ

細い  
繊維が  
広がる

芯の  
仕上げ

二人で  
四隅を  
持って  
ひっぱる

大工も  
金箔職人  
も使う

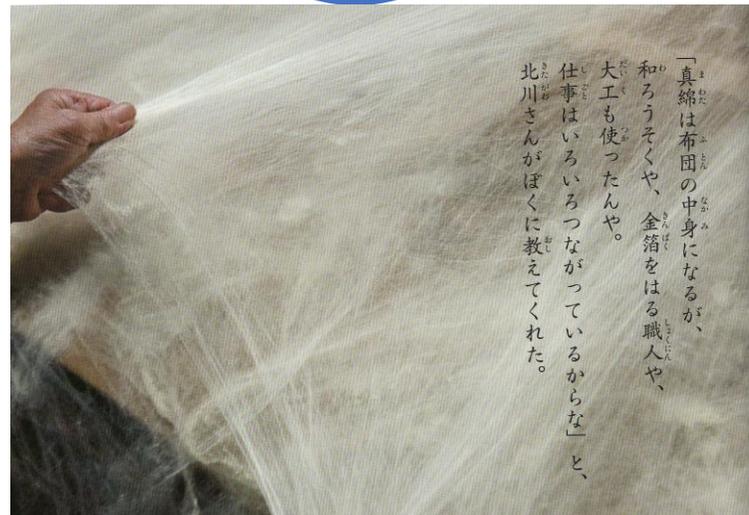
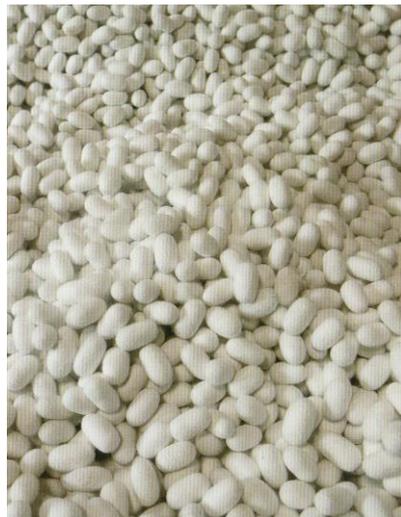
布団の  
中身

繭を茹で  
広げる

蛾の繭  
の繊維

まゆ  
繭

北川さん夫婦の工場  
(滋賀県米原市)



お蚕さん

# まとめ（蠟と芯）と共通認識

- 「蠟カス」と「藍染め」との関係
- 「染（すくも：藍の葉を発酵した物）」と「むしろ（藁で編む）」との関係
- 「染液」と「うわぐすり」との関係（小鹿田焼）
- 「藍染」までに、藍の葉を3回発酵。
- 「和紙」は芯をつくる時に、和紙を筒状に丸める。これが「芯の軸」
- 「和ろうそく」の「芯の軸」に巻き付けている細長いものが「灯芯」
- 「灯芯」は、灯りにも、墨作りにも役に立つ。
- **日本の思想（根っこ）：すべての物質・生き物に御魂（命）が宿っている。**
- だから物を大切にし、生物・自然を大切にし、親・先祖を大切にします。  
命あるもの全てを大切にしたい。命を尊ぶ。
- **すべてはつながり、そして、ひとつ（命）につながっている。**